

札幌市立山鼻小学校

〒064-0914

中央区南14条西10丁目1番

【幼保との連携】

○近隣幼稚園・保育所との連携

- ・プールでの水遊び
- ・スキー山でのチューブ滑り
- ・「学習発表会」への招待
- ・「学校探検」園児・児童の発表交流
- ・「図書室探検」
- ・幼・保の教諭・保育士による授業参観
- ・園へ出向いての、「入学へ向けて」の講演
- ・運動会のグラウンド貸与・施設利用(トイレなど)
- ・「運動会」「生活発表会」「入団式」「卒園式」の小学校からの出席



【学習発表会で1年生の演目を観覧している園児】

○連携に至る経緯

- ・「幼保小連携推進協議会」でのつながり
- ・地域（校区内）としてのつながり

○連携先との関係

- ・近隣に幼・保6園があるため、卒園児が多く入学する。



【学校探検で1年生と交流している様子】

【成果】

- 園児が「校内探検」をしたり「図書館」の本を読む体験をしたりすることで、小学校へのあこがれや期待が増した。本校は、和式のトイレが多いため、「トイレ体験」を取り入れることにより、入学後の不安の解消に役立っている。
- 1年生との交流を通し、学校生活への期待が膨らむような活動を計画している。
- 園へ出向いての「入学へ向けて」の講演では、保護者の疑問に答え、小学校の様子をお伝えすることで小学校生活への不安を少なくするよう心がけている。

【考察】

- ・幼保との連携を推進するために、気軽に行き来できる関係に心がけている。「学習発表会」の観覧や、夏の「プール」、冬の「スキー山」を使っていただくなど、担当者間で電話やメールでの打合せ程度での使用日程調整を行い利用いただいている。
- ・新たな取組として、小学校から出向き園の様子を見学したり、児童が職業体験などをさせていただいたりできるように検討している。

札幌市立幌西小学校

〒064-0810

中央区南10条西17丁目1-1

中央区

【幼稚園との連携 1】

毎年、2学期末に大谷第二幼稚園・オアシス保育園と1年生との交流会を実施している。

本校と同じ中央区にあり近隣であること、毎年園児が本校に入学してくることから、先生同士の連携や園児・児童の交流を深めるために、10年以上前から実践している。

今年度は、園児67名、児童164名が対象で、1グループに小学生が4～5名、園児が1～2名で交流を深めた。園児と児童は体育館でグループごとに、生活科「つくろうあそぼう」で児童が作った遊び道具で楽しんだ。けん玉、どんぐりゴマ、まと当てなど、工夫あふれる遊び道具に園児たちは大喜び！体育館いっぱいにお互いの笑顔と歓声が広がった。

最後に、園児たちがお礼として素敵な歌を披露してくれた。感謝の気持ちがよく伝わってくる歌声に、児童たちは力いっぱいの拍手をして交流を終えた。



1年生が生活科で作った遊びで交流

【幼稚園との連携 2】

近隣の幼稚園・保育園が本校を訪ねる取組である。これも何年も前から行っている。事前に日程調整を行い、来校日を決める。園児たちは、保育士に引率されながら校内を巡り、小学校の校舎の大きさや雰囲気などを感じてくれている。

【成果】

- ・1年生にとっては、「来年の1年生のために」という意識で交流会を準備し、下学年への関わり方を学ぶよい機会となっている。
- ・実際にふれあうことを通じて、1年生なりに「人のために自分の力を発揮する」ことへの喜びを感じることができるようになっている。

【考察】

- ・毎年交流することで、小学校と園の担当者や先生同士の意思疎通が図りやすくなっている。引継にも生かされ、入学する園児についてより具体的な引継ができています。
- ・実施時期が、インフルエンザの流行し始める頃なので、実施後の手洗い・うがいの指導を徹底し、健康管理に留意している。

札幌市立桑園小学校

〒060-0008

中央区北8条西17丁目

【園児の学校訪問】

8月にはアートチャイルドケア札幌桑園の園児7名、12月に中央幼稚園児の33名が本校を訪問した。内容は1年生の授業見学と、図書室や体育館などの校舎内見学である。

授業はワークスペースから1～5組まで見学。「椅子にきちんと座って、先生の話をよく聞く」「手を挙げて発言する」ものであることに園児たちが気付くよう、立ち止まるタイミングを見計らった。

体育館では、その大きさに驚いたようであった。10分程度自由に遊んでよいことを伝えた。校舎内では静かに落ち着いて行動していたので、体を動かす場を設定したことでバランスをとることができた。声をあげながら喜んで走り回ったり、ろく木に登ったりしていた。帰りには「楽しかった。」という感想があり、園児の表情からも充実感を感じ取ることができた。

【教員同士の交流】

2月には、中央幼稚園の先生方5名と本校低学年担任5名で、中央幼稚園の「しなやかな心と体」を育む研究や、桑園地区の子どもたちの特性について交流を行った。

桑園地区の子どもたちの特性については、何もないところで転ぶなど、発育が十分ではない危惧があること、また、集団生活において自分で折り合いをつけていく力の弱さが見られることなどの意見があった。楽しく体を動かし、さらに「やってみよう」という挑戦する意欲を高めることを大切にする幼稚園の姿勢と、人数の面からも行動の制約は増えるが、その中でも運動量を確保したり意欲を高めたりしたい小学校の姿勢を理解し合うことができた。

【成果】

- ・園児たちに学校生活をイメージさせ、入学の不安よりも楽しみの気持ちの方をもたせることにつながった。
- ・幼稚園、小学校でどのような考え方で教育活動を進めているか、現場の先生同士で意見を交わしたことで、児童理解につなげていくことができた。

【考察】

- ・方針の違う幼稚園や保育園から子どもたちが集まることに、小学校1年生の指導の難しさの一因があるのではないかと考える。



1年生の授業を見学する園児



教員同士の交流

札幌市立円山小学校

〒064-0821

中央区北1条西25丁目1-8

【幼稚園との連携】

近隣幼稚園とは数年来、園児の「学校施設見学」という形で交流を行ってきています。昨年度からは児童・園児がより密接に関わる機会を設け、幼小の接続を一層意識した取組を実施、さらに今年度は複数の幼稚園と交流することができました。

12月8日、小学校に到着した園児たちは、まずは小学校内をぐりとひとまわり。教室で学習している児童の様子を見学し、そこにある物を見たり、触れたりすることで、小学校という場を意識し馴染んでいきます。

1年生は生活科「つくろうあそぼう」の学習の中で、おもちゃを工夫してつくったり、遊び方を工夫したりして楽しむといった活動を行ってきましたが、その中で「考えた遊びで自分たちだけではなく、学校見学に来る園児たちとも楽しく一緒に遊びたい。」という意識をもたせ、より子どもたちが質の高い活動を目指していく姿を期待しました。

【成果】

1年生の児童は、幼稚園児との交流があることを知るとそれまで以上に意欲的に遊びの内容を考えていました。園児という相手ができることで「相手意識」をもちながら「これで幼稚園の子は楽しんでくれるかな?」「もっと～したほうがいいな」などと考えながら、活動のレベルを高めていく姿が見られました。当日は幼稚園児が来校することを心待ちにしており、多少緊張気味だった幼稚園児たちの気持ちを和らげようと、年上の者として優しい態度で接したり、分かりやすいように丁寧に遊びの説明をしたりと「おもてなし」の心をもって交流しようとする姿が見られました。

【考察】

昨年度からこの交流は12月に実施していますが、子どもたちのつながりをさらに意識するのであれば、学習発表会などの行事に招待するなど年間を見通した数回の交流を行い、入学後の交流につながる活動にしていきたいと考えています。

また高学年の子どもが保育園を訪れ、園児と触れ合う体験をするなど他学年との交流にも広げていけそうです。

交流の場を増やし、今後もより連絡を密にして連携を深めていきたいと思います。



【この遊び、やってみたいな】



【今日の交流、楽しかった?】



【こうやって遊んでね!】

札幌市立緑丘小学校

〒064-0810

中央区南10条西22丁目3-1

【つぼみ幼稚園・ルーテル幼稚園との交流】

・本校の校区にあり卒園児が本校に入学している。毎年、1年生が生活科で、5年生が総合的な学習の時間で、交流を継続してきた。

◇1年生との交流

9月、10月の2回にわたり、小学校に来てもらって交流を行った。広い体育館で、1年生と年長児の合同チームを作ってのリレーゲームや全員でのじゃんけんれっしゃなどで遊んだ。また学級ごとに教室の中で、小集団に分かれての活動（ひらがなを教える、絵本を読むなど）をしたり、全員でクイズ大会やゲームをしたりして楽しんだ。

◇5年生との交流

11月には、ルーテル幼稚園を訪問し、グループごとに年長さんとおもちゃや園庭の遊具で遊んだ。つぼみ幼稚園には本校に来ていただき、教室や体育館で遊んだ。2月には、両幼稚園を本校に招いて、探検をしたりした。5年生は積極的に園児に声かけをして、楽しんでもらおうとしていた。前回と同じ組み合わせの園児と小集団で活動することで、より仲良くなり、つながりも強くなった。

◇札幌市教育委員会のなかよしキャンプ事業による交流

平成26年度から5年間予定の事業で、本校5年生と本校に就学予定の年長児の参加希望者が一緒に自然体験活動を行っている。年間5回の実施で、今年度は、学校探検や円山動物園、北方自然教育園での体験活動、冬には、青少年山の家でのお泊りキャンプなどを通して交流を深めた。

【成果】

- ・1年生は、校内では6年生などに関わってもらい、かわいがってもらおう自分たちが年下の友達を楽しませてあげたい、関わってあげたいと思い、それが成功することで自分たちの成長につながり、自信をもつようになった。
- ・5年生は、来年春から自分たちが関わることになる幼稚園児との交流により、6年生への期待感や自信をもつことにつながった。

【考察】

- ・毎年、交流を継続していることで、学校と幼稚園とのつながりが強くなり、年度が変わってもスムーズに連携しやすくなっている。教師間でも、子どもについての情報共有がしやすくなっていると考えられる。



札幌市立盤溪小学校

〒064-0945

中央区盤溪226番地

【ばんけい幼稚園との連携】

昨年度より、近隣の「ばんけい幼稚園」との交流を1年生の生活科の成長単元の中に組み入れた。「お互いにパワーアップしよう」ということを大きなねらいとし、幼稚園は、小学校への期待と不安を背負って、1年生は、2年生へと成長を遂げる点で幼稚園との協力・連携を図った。

もうすぐ2年生になる1年生は、「がんばりたい!」「いいとこみせたい!」という反面、不安もいっぱいある。実際に「出会うの場」を作ることで、相手意識が芽生え、困難を乗り越えようと一歩成長を遂げていくのである。この相手意識が1年生の心を揺さぶるのである。



中央区



【成果】

- ◇『『すてきな2年生』になりたい!』というお兄さん・お姉さんの意識が醸成された。
- ◇鍵盤ハーモニカの演奏を披露したり、簡単なイベントの司会をし、一年間の成果を披露できた。
- ☆1年生の担任を含め、盤溪小の先生方と幼稚園の先生方とのつながりができた。

【考察】

・継続することのよさ

小学校と幼稚園とが「子どもの成長」をねらって交流し合うことは大切である。幼稚園としては、小学校に就学するにあたり、どこまで育てておかねばならないのか…、また保護者に小学校の話をする際に、いろいろとアドバイスができる。また、小学校側としても幼稚園の実態を知る良い機会である。

何より、先生方同士が仲良くなることで、子どもを通してのつながりができる。

・新たな取組の検討

無理なく行っていくことが最優先。負担にならないよう、職員間で年に何度か交流を設定していきたい。初めは教師主導で最後には子どもたちの手でできていくことを目指していく。

顔見知りや、お互いに名前呼び合えるような場を作っていけるよう、一歩ずつ幼稚園との交流を進めていきたい。



札幌市立資生館小学校

〒060-0063

中央区南3条西7丁目

【しせいかん保育園との連携】

資生館小学校には、同じ建物の中に子育て支援総合センター、ミニ児童会館、しせいかん保育園の四つの施設が存在している。同じ建物内にある利点を生かし、例年、次に挙げるような様々な交流を行っている。

・連携の様子

《教師間の交流》

- ・小学校の参観日の折には、保育園の職員がいつでも参観できるように声をかけている。保育園の先生方も、1年生を中心に卒園児がどのように成長しているのか、また入学したばかりの1年生はどのような学習を行っているのかなど、主に4月に参観いただいている。
- ・2月には、資生館小の教頭が入学前に身に付けておいた方が良くことや小学校の学習などについて保育園の保護者会で講演を行っている。

《子ども同士の交流》

- ・4施設の交流の場として、「しせいかんっ子広場」という行事がある。この中で、1年生と保育園児、子育て支援総合センターに来ている赤ちゃんも一緒になって、ゲームや体操を行ったり、歌や器楽合奏を发表或ししている。
- ・学芸発表会の児童公開日に、年長の子どもたちに見学してもらっている。
- ・12月の児童集会「チャレンジランキング」にお客さんとして、参加してもらっている。また、職員の方にもお店を開い

ていただき、本校の児童も楽しんでゲームに取り組んでいる。



【しせいかんっ子広場で
ゲームを楽しむ子どもたち】



【チャレンジランキングの保育園のお店と
保育園児の記録が残る小学生のお店】

【成果】

- ・玄関を共有し、日々出会う中やたくさんの交流を通して、同じ施設に通う仲間としての近しい気持ちが育ってきている。
- ・小さい子に優しく接しようと、自制心を働かせる必要が生まれる。特に、低学年の児童にその必要感をもたせられることは、他の小学校にはない大きな利点である。
- ・何か聞きたいことがあった時、小学校側も保育園側もためらわずに話ができる関係が構築されたこと。

【考察】

- ・今後も一つ屋根の下という利点を生かして、無理なく交流を重ねていきたい。